第115号
2024/12

PVかながわ ニュースレター

News

相模原市 脱炭素ライフスタイル普及啓発 大学連携事業
ZERO CARBON ポスターセッションチャレンジ
～大学生が考える脱炭素の提案～

未来へSwitch! ゼロカーボン さがみはら

11月16日（土）青山学院大学相模原キャンパスにて大学生対象のZERO CARBONポスターセッションチャレンジ（主催：相模原市、企画/運営：青山学院大学）が開催されました。参加は9チーム（4大学）で、「アイディアの新規性」「実現可能性」「当日のプレゼンテーション」「ポスター及び動画のデザイン」の4観点での審査員の評価、発表者・聴講者の投票により各賞が決定しました。それぞれの概要説明動画等は下記サイトで見ることができます。

https://sgmhr.si.aoyama.ac.jp/zeroc/result.html

私は当日審査員として参加していたので、感想を記します。**ZERO CARBON賞**のチームは市内の果樹園から多く出る剪定枝で作るバイオ炭の利用で土壌に炭素を貯留するという新しい視点で最優秀賞となりました。バイオ炭を作るコストやCO_2削減量、剪定枝のバイオ炭利用と植林によるCO_2削減のコスト比較等の説明もわかりやすく説得力がありました。**グッドプレゼン賞**のチームは地元のお年寄りがやめてしまった炭窯の復活を目指す若者らしい活気ある活動が評価されました。相模原市は面積の約6割が森林で、その保全と活用が大きな課題となっています。バイオマス利用によるゼロカーボンと共に地域内の経済循環にも着目していて頼もしく感じました。**審査員特別賞**では木から作る電池「ウッドバッテリー」の提案をしたチームがあり、木材の新しい活用方法を知ることができました。また相模原市では未実施のゴミ袋の有料化を提案したチームは大学生にアンケート調査をして有料化で一人暮らしの若者のゴミに対する意識が変わるという結果を導いたうえでの提案で、地道な取り組みに感心しました。

ZERO CARBON賞：
青学社情花チーム（青山学院大学）
「枝から始めるエコライフ
～剪定枝を活用してCO_2を減らそう！～」
グッドプレゼン賞：
地域環境政策研究室（麻布大学）
「青根で炭窯を復活させるプロジェクト」
審査員特別賞：
青学社情謎解きチーム（青山学院大学）
「ゴミ袋の有料化について」
国士舘南区班（国士舘大学）
「ゼロカーボンパーク」
グリーンルーツ（桜美林大学）
「森を減らす！？ ~木から作る電池~」
チャレンジ賞： 4チーム

当日は特別企画として三友グループ「コーヒー豆かすの再資源化からのZERO CARBON」と株式会社PXP「ゼロカーボンに資する次世代型ソーラーパネルの開発」の取り組み紹介も行われました。株式会社PXPは今年4月にペロブスカイトとカルコパイライトのタンデム型太陽電池で変換効率26.5%を達成したと聞いていたので興味深く話を伺いました。A1サイズよりも一回り大きいフィルム型太陽電池の展示もありました。（PXPWebサイトhttps://pxpco.jp/）最先端の企業の取り組みの話は学生たちに大いに刺激を与えたことと思います。彼らが脱炭素社会を担う主戦力になる日はすぐそこです。

（北村記）

世話人から

連絡事項

早いもので、今年も残りわずかとなりました。

昨年同様、暑い夏が印象的でしたが、今年の横浜では猛暑日が過去最多、7～8月の平均気温は過去最高値となりました。
https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/koho-kocho/press/kankyo/2024/1003moushobi.html

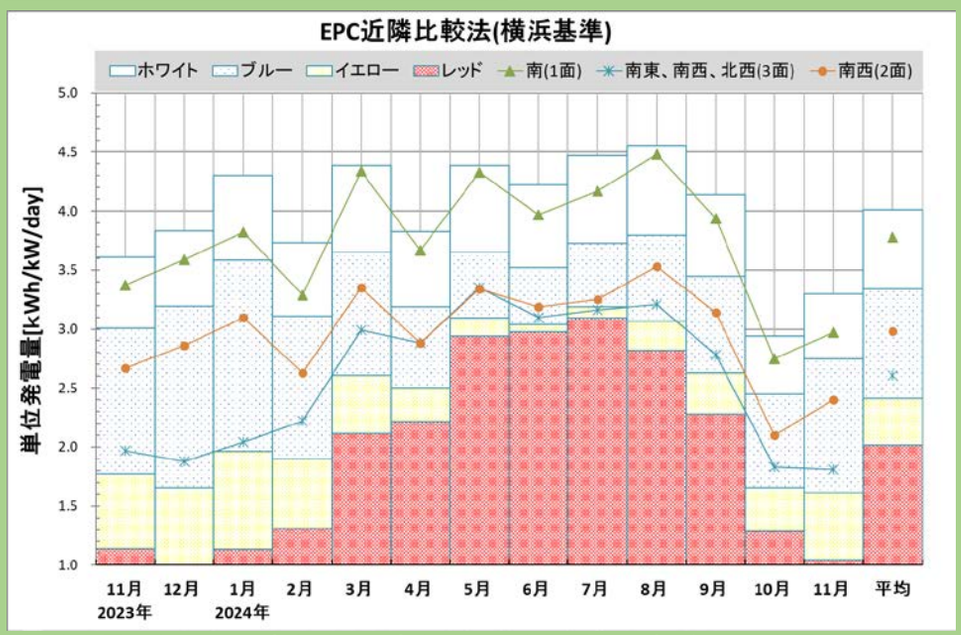
大型台風は迷走し、台風から離れた場所でも、間接的な遠隔降水により大雨になるなど温暖化の影響を感じました。

来年以降も活動を継続したいと考えておりますので、皆様から、フォーラムのテーマ案やご意見をいただけると励みになりますので、今後もよろしくお願いいたします。

12月以降の予定

「相模原SDGsEXPO」
（アースクールさがみはら出展
PVさがみはら協力）
日時：2025年1月25日（土）
10:30–16:00
会場：アリオ橋本

今月の単位発電量！



気象庁によると11月は「北日本では上旬後半に、沖縄・奄美では下旬後半に寒気の影響を受けたものの、中旬は全国的に寒気の影響を受けにくく、沖縄・奄美では暖かい空気が流れ込み、月平均気温は西日本と沖縄・奄美でかなり高く、北・東日本で高かった。上旬はじめは西日本日本海側を中心に台風第21号から変わった低気圧や前線の影響を受け、中旬は沖縄・奄美で台風や湿った空気の影響を受けやすく、下旬は東日本日本海側を中心に低気圧の影響を受けた一方で、中旬以降は北日本を中心に高気圧に覆われやすかったため、東・西日本太平洋側の月降水量は多く、西日本日本海側では平年比は240%となり、1946年の統計開始以降、11月として1位の多雨となった。東日本太平洋側の日照時間は平年並みだった。」

単位発電量とは、1kWあたり、1日あたりの平均発電量です。毎月の発電量[kWh]を設備容量[kW]と日数で割ってください。
平均は直近12か月の単位発電量です。一般的に単位発電量は、ブルーの範囲になることが期待されます。北西など、やや北向きがある発電所はイエローになることもありますが、レッドが続く場合は、メーカなどに相談することをお勧めします。
※近年の太陽光システムは均質化や効率改善が進み、2000年初頭の物に比べ、実発電量が10%以上多くなることもあるので、補足としてホワイトを設けました。